

令和5年度 校長メッセージ（1） 第1学期 始業式

校長 博田 英明

新2・3年生の皆さん、おはようございます。4月から翔陽高校の校長に着任した博田英明です。私はこの翔陽高校に大変親近感があります。なぜなら、翔陽高校は今から18年前に都立高校2校を発展的に統合して誕生した学校ですが、その2校のうちの1校である八王子高陵高校で私は英語教師として9年間勤務していたからです。そういう意味で、私はある意味母校に帰ってきたような感覚があります。私が以前勤めていた学校が発展してできた学校で、こうして皆さんにお会いできるというのも何か不思議な縁だと感じます。

さて、そんな翔陽高校のスクール・ミッション、つまり東京都における本校の使命として、「国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成」することが掲げられています。また本校の教育目標の中では育成したい資質・能力の一つとして、「自己肯定感を養い、高い規範意識と思いやりの心を持ち、人間性豊かな生徒」が挙げられています。私は改めて本校の目指す学校像であり、生徒像でもあるキーワード、つまり「対人能力を身に付ける」こと、また「自己肯定感」や「思いやりの心」を持ち、「人間性豊かな」人となるために何が必要かと考えてみました。

それは一言でいうと、「自分と周りの人の存在を大切にしましょう」ということです。その第一歩として英語の言葉を紹介します。” Respect Others.” です。Respect とは、御存じの通り「尊敬する」「大切に思う」「敬意を払う」という意味です。そして、Others とは、「自分以外の人、もの」という意味です。ですから、Respect Others. で「自分以外の人やものを大切に思いましょう」ということになります。私たちの周りには、いろいろな人達があります。人によって興味も違うし、得意なことも違います。例えば、授業中に黒板やスクリーンに書かれたことをノートに写すのも、早く写す人がいれば、時間をかけて写す人もいます。みんなが自分と同じとは限りません。様々な特性・特徴のある人たちが成り立っているのが社会であり学校なのです。一方、私たちには、相手の立場を理解しようとせずに自分の都合で判断してしまう傾向がないでしょうか。これでは、自分の周りの人や物を乱暴に扱う自分勝手な人になってしまいます。みんなが自分と同じ、ということはないのです。たとえ、黒板やスクリーンの文字を写すのに時間がかかったとしても、その人が一生懸命写しているのならRespect して応援してほしいのです。大事なことは、自分との違いに気づいたときに、「何で、できないの？ 何でそんなことするの？ 信じられない」と否定してしまうのではなく、「どうしてなんだろう」と、その人の立場に立って考えることなのです。そうすることが、Respect Others. の第一歩になるのです。

高等学校では、たくさんの友達や先輩・後輩、先生方との出会いがあります。自分とは違う友達や先生方に出会ったときは、この言葉を思い出してその人のことを理解しようと努めてください。周囲の人を大切にすることは、自分が周りの人から大切な存在として認められることにもつながります。Respect Others. を心にとめて学校生活を送りましょう。

以上で、始業式での私からの挨拶を終わります。